

## ■肢体不自由支援学校における実践事例

# 医療的ケアが必要な子どもをはじめ、 どんな子どもも楽しめる読書活動をめざして

横浜市立上菅田特別支援学校  
関戸 優紀子

### はじめに

本校は、全国の肢体不自由の特別支援学校の中でも大規模の学校で、小学部・中学部・高等部の児童・生徒、総勢225名が在籍しています。子どもたちの発達段階や実態も多様です。

昨年度は「いろいろな姿勢で楽しめるマルチメディアDAISY図書」というテーマで、研究を行いました。自立活動を教育課程の中心としている子どもたちの事例を挙げて報告しました。

2013年6月に行われた研究会の中で、伊藤忠記念財団の職員の方からの「バリアフリー読書」「どんな人も読書を楽しめるように」という熱意のこもったメッセージを受け取りました。

そこで、先に述べたようにさまざまな実態の子どもたちがいる本校ですから、今年度は、自立活動を教育課程の中心としている子どもたちだけでなく、準じた・知的代替の子ど

も、また医療的なケアが必要な子どもなどの学習場面でも使用しました。

また、学校生活場面だけでなく、定期的に発行している「図書室だより」を通して、家庭で使用したい希望者を募り、夏休み中に家庭への貸し出しを行いました。

学習に使用した教員や、夏休み中に使用した家庭の保護者にアンケートをとり、さまざまな声を吸い上げました。

### 研究に向けた準備

昨年度に引き続き、今年度も伊藤忠記念財団からすべての学部の各学年に、マルチメディアDAISY図書「わいわい文庫」を寄贈していただきました。今回は、CDの中に何が入っているか一目でわかるプリントもいただきました。

本校では、各教室にパソコンがあります。昨年度から、わいわい文庫もメディアボックスというさまざまな支援機器（改造マウスなども含む）

が入っているボックスの中で、各教室ごとに管理してもらうことになっています。

配布するにあたって、全職員へ周知しました。そして、今年度はICT教育部に協力をしてもらい、数台の

iPadに「Voice of DAISY (VOD)」というアプリを入れてもらい、研究用として使用しました。

また、使用している教員、また貸し出しを行った子どもの保護者にアンケートの協力をお願いしました。

学部 ( 小 ・ 中 ・ 高 )	学年 ( 年 )	児童・生徒名 (任意) 複数人で使用したか	YES ( 人 ) ・ NO
使用した機器 ( P C ・ i P a d )	使用した授業名	夏休みに使用した (YES ・ NO)	
取り組み時の姿勢	車椅子や椅子に座った状態 ・ 寝て ・ その他 ( )		
良かった点			
改善を求める点			
自由記載欄			
担任名	提出先 (小：開戸) ご協力ありがとうございました。		

教員や保護者にお願したアンケート

### ●事例1：自分で読めるって楽しい！ どんな姿勢でも読めるってうれしい！

小学部2年生女子のAさんは、気管切開をしており、痰の吸引の医療的なケアを行う必要のある子どもです。身体に変形があり、呼吸状態にも配慮を必要としています。気管切開をしていることから、発声することができないため、人とのコミュニケーションは手話やサイン、文字盤やQuick talkerという音声の出る支援機器を使用しています。

手話については、クラスの担任と自立活動部の担任を中心に、学校生活全体を通して、常に手話を交えながらAさんとコミュニケーションを

積極的に行っています。それと併せて、本を手話で読み進めることで、手話の語彙数も昨年度より大幅に増えています。

今までは絵本や教科書の物語の単語をAさんが取りこぼさず読めているかを確認するために、教員が音読してAさんはそれに合わせていました。Aさんは平仮名をしっかりと読むことができるので、担任としては自分が声に出して読んでしまうことで、Aさんが「自分で読めた！」という満足感が得られていないのではと感じていました。

そこで、マルチメディアDAISY図書を使用してみることにしました。

速度調整、間などそれぞれ設定ができることで、Aさんのペースで読むことができました。そして、ハイライト機能のおかげで、Aさんも飛ばし読みをすることなく、また、教員も、Aさんの手話がきちんと取りこぼさずできているかを確認することができました。

しかし、Aさんの実態や、狭い教室内では、パソコンを使用したマルチメディアDAISY図書の使用に制限がでることが多くありました。

たとえば、呼吸状態が悪く、椅子に座っていることができず、横になっている必要があり、そのような状態の時には痰の吸引も多くなり、教員はAさんの側で体調管理を行うため、パソコンをAさんの近くに持っていき、起動させるということはむずかしくなります。

そこで、iPadにアプリ「VOD」を入れることで、体調が悪く横になっている時でも、手軽にマルチメディアDAISY図書を楽しめるようになりました。座学時にマルチメディアDAISY図書を読む際は、手話で読み進めますが、体調が悪い時は速度や間などをリセットし、目と耳で読書を楽しんでもらいました。側臥位や腹臥位でも読むことができ、そのような姿勢変換を何度も繰り返しても、iPadなら簡単にその都度丁度良い場所に設置する

ことができ便利でした。また、給食の配膳を待つ時間などにも気軽に楽しむことができました。

保護者の希望があったため、Aさんには夏休み中にも貸し出しを行いました。保護者にとっても、Aさんが文字を追って読んでいることを実感できたそうです。保護者からは、ノンタンシリーズや短い話で繰り返し言葉が多い幼児向けの本がもっとあると、Aさんも楽しめるから、今後期待したいという意見をいただきました。



給食の配膳を待つ間



側臥位



腹臥位

### ●事例2：ひとりじゃなくて、みんなで楽しむ！

高等部1年生（男子3名、女子2名）の学年学習での授業で使用しました。

拡大画面に映すことで、5名の子どもたち全員が見やすい環境が、教室内でつくれました。また、多様なジャンルの本があることから、さまざまな実態の生徒が混在する中でも取り組むことができました。

しかし、文字を追うことよりも絵をじっくり見せることで、集中して聞くことができる生徒もいます。そんな生徒のために紙芝居のような画面が選択できたり、絵を大きくできたり、文字か絵を選択し画面に出しておくことができたら良いと感じました。

### ●事例3：言葉の学習に！

小学部2年生女子のBさんは、図書室だよりを見た保護者が夏休み中の貸し出しを申し込み、家庭で使用しました。

本を読んであげたいけれど、忙し

いときに便利だったそうです。書籍よりも注目して見ており、保護者が読んで聞かせる時よりも、言葉を実似ることが多く、言語の練習としても活用できたそうです。

残念だったことは、パソコンでないと使えないという点だったそうです。ポータブルDVDプレイヤーでも再生できると、車での移動時や、通院やリハビリの待ち時間でも楽しめるのにと感じたそうです。

### ●事例4：夏休みも読書を楽しめた！

小学部4年生女子のCさんは、ふだんから本の好きな子どもです。保護者から希望が出て、夏休み期間中もマルチメディアDAISY図書の貸し出しを行いました。家庭では車椅子や椅子に座った状態で楽しんだそうです。読むスピードが調節できたことで、Cさんの聞き取りやすいスピードで本を楽しめたそうです。また、通常バージョンの他に短縮バージョンがあるものもあり、集中力が続かないお子さんには良いだろうという保護者からの話がありました。

今後、子どもがもっと本に魅力を感じられるように、本を選ぶ画面の文字などがもう少し大きいものになるか、アイコンのようなイラスト表示があると良いのではという意見もいただきました。

## おわりに

本の読み聞かせや読書活動は、子どもの心を育てたり、語彙数を増やしコミュニケーション能力の育成にもつながったりします。

本校では一人で本を読むことができない子どもたちも多いため、絵本の読み聞かせやパネルシアター、エプロンシアターなどを用いて、さまざまな声色や表情豊かに、教員が子どもたちの読書活動を行っています。

また、家庭でも保護者の方々は忙しい時間の中、子どもに読み聞かせをしている話を多く聞きます。「本を読んで！」と願う子どもも多いと聞きます。「読んで欲しい」と言う時が、子どものやる気スイッチも入っている時で、より効果的な読書活動ができるチャンスだと思います。

ただし、読む側がいつも子どものリクエストに応えるのは無理です。そこで、「読んでくれる人」がいなくても、ボタンを押すだけで聞いたり、見たりすることのできるツールがあることで、子どもの「今、読みたい！」という気持ちに応えることができたなら素晴らしいことだと思います。

身体に不自由がある子どもたちは、どうしても未経験なことが増えます。本を読むことで、知らなかった世界

を見ること、わかることができます。想像するという力もつきます。どんな子どもでも読書を通して得るものが必ずあります。今回の研究から寄せられた「こうなったらいいなあ」の声を少しでも取り入れていただけたら幸いです。

iPadの普及や、デジタル絵本、読み聞かせCDなど、さまざまなツールも多くありますが、私自身もデジタル絵本を教材としてつくっています。

対象となる子どもの実態に合わせて、効果音を入れたり、絵を動かしたり、絵の大きさを変えたり、手話のイラストを入れたりします。教材作りには、かなりの時間がかかるため苦勞していますが、子どもの想像する力や言葉の意味、また子どもが集中して絵本の世界に入りこめるようにしたい一心でつくっています。

「聞くこと」や「カラフルな絵を見ること」から「字を追って自分で読む」というところまで、かなりの時間がかかる子どもたちも多くいます。その段階の子どもたちが楽しめるものが増え、多くの本に触れることができたと思います。「本っておもしろい」から「自分で読んでみたい！」と思えるまで、マルチメディアDAISY図書がその一助になることを願います。